

平成26年度 自己評価結果公表シート

学校法人 常楽寺学園 穂積幼稚園

1. 本園の教育目標 ※太字部分が変更になりました。

[保育目標] 生活・あそび・行事を通して

意欲や興味を育てる

豊かな創造性・感性を育てる

良心を大切に守り、育む

よく考える力・学びへの意欲を育てる

[保育理念]

子どもの そのままの姿を受けとめよう

いきいきと取り組んでいる姿や 熱中した状態を大切にしよう

たくさん抱きしめよう

たくさんの失敗ができるようにしよう

「ほんものがもつ力」を大切にしよう

みんなで 子どもの成長や発達を喜び合い 協力し合いながら成長しよう

[先生が大切にしたいこと]

子ども一人ひとりが 自分からやれる環境を用意し、遊びたくなる環境、いきいきと取り組みたくなる環境を工夫します

子ども一人ひとりを たくさん抱きしめ 心に寄り添います

保育者は 真・善・美の価値観を意識し 子どもにとって 心の拠り所として よき理解者支援者として 共同作業者として 遊びでの援助者として あこがれの存在になります

保護者とともに 子どもの成長や発達を喜び合い 大人も子どもも 協力し合いながら成長できる環境を用意します

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

本園の教育理念、教育目標、幼児教育要領をより深く理解し、生活教育としての基盤をより深いものになるための振り返りを積極的に行う。

3. 評価項目の達成及び取組み状況

評価項目	取組み状況
園庭の広域化	近隣にある公園へ足を運び、自由あそびの場として使用をしたが、予測以上に移動距離に時間がかかった。毎日の活動の場としては、移動時間に無駄ができるので自然でのあそびや運動面に関する計画内で活用する方向である。 また、25年度から外部講師による教育活動を行った。その結果、自ら好んで体を動かす姿や仲間で助け合うことやルールを使った遊びなど、幅広い姿を見ることができた。
健康と安全への配慮	戸外(園庭)の環境について、危機管理の成長を促すため環境を用意するために、保護者との協力の下、手作りの遊具を多く作成してきた。これらの遊具は子ども達の生活の場としては豊かに整えることができた。また、安全面に関しては毎月定期的に点検を行うことにより、必要以上の怪我は少なくなった。
能動的な避難訓練の実施	平成24年度に作成した防災マニュアルを基本にして能動的な避難訓練することや、避難場所を移動しながら送信できるメールシステムへの移行などを行った。その結果、子ども達が自ら災害について考える姿が見られた。今後は、さらに防災マニュアルの再考や徹底を行う。
ほづみバブー保育園との交流	定期的にほづみバブー保育園と交流を行う予定であったが、インフルエンザ等の流行により予定していた交流ができない状況にあった。今後は、異年齢の育ちを促すために計画を推進する方向である。

<p>科学性のある遊びをねらいに取り入れる</p>	<p>平成25年度は「ふしぎ、おもしろい」を「ためしてみよう、やってみよう」という姿勢を大切にしてきた。科学については、「教える」ものではなく「ためしてみよう、やってみよう、失敗や成功を皆で共有しよう」というねらいのもと年長児を中心に実践した。</p> <p>結果としては、幼児期においては「科学する」というよりも、「一人ひとりの興味や関心を大切に、どこまでためせるか、やれるか」ということが、個々の主張や他児との意見共有など成長のうえで大切なプロセスだということが再認識できた。今後は、さらに園全体で取り組んでいきたい。</p>
---------------------------	---

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

取り組むべき課題について、全教職員が共通に理解し、それぞれ自己評価し、取り組み状況を話し合うことを通して、本園としての方針を明確にすることができた。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
幼稚園教育要領の理解	幼稚園教育要領を再確認し、職員間で話し合い、理解に努める。
子育ての支援についての理解	子育て家庭の現状や支援の必要性を理解し、具体的な形や内容を話し合う。
保育者としての専門性に関する研修・研究	幼児の発達理論や記録の取り方、考察の仕方に関する研修や研究を行う。また、保育記録を見直し、発達に基づいた評価方法や教材に関する研修、研究も行う。
食育活動や給食の内容の充実を図る	保護者の方の評価でも給食のメニューに関しての項目で評価が下がった結果となった。献立などでも栄養バランスが良くないことがあるので、給食業者と連携して内容の充実を図る。また、食育活動では、従来の「自分で世話をしたものを食べることをねらいに計画してきたが、より内容を充実していきたい。
職員の労務環境の整備	時間外業務(残業)等の労務環境を見直し、就業等の規則類の整備を図る。また、保育記録などを電子化することで個々の発達を振り返りやすくするほか、研修計画なども俯瞰を図る。

6. 学校関係者の評価

特に指摘すべき事項はなく、妥当であると認められる。

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。